

山形県の古木・名木 No.49

津谷の大柳 (つやのおおやなぎ)

最上郡戸沢村大字津谷字大柳1960

根元の回り5.5m、樹高22mのシロヤナギ。

言い伝えによると、江戸末期石清水の庄司五兵衛という人が、昼時に弁当の箸代わりに使った柳の枝を差したのが成長したとされていたが、腐植した樹木の一部の年輪を調査したところ、1cmに四本の年輪があったことから、四百年は有に越えていることが想定される。

樹木別幹囲で、柳では現在日本一の樹木。

昭和61年7月22日、村指定天然記念物に指定。〔山形県みどり推進機構〕

(案内略図)



日本一の大柳 (戸沢村指定文化財)
和名 シロヤナギ (ヤナギ科)
樹高 二十二メートル
幹回り 七、七メートル
樹齢 言い伝えによると白清水集落の祖先の方が江戸末期に植えたと言われているがこれだと百数十年程度である。今回の調査で腐蝕した樹木の一部の年輪を見たところ一センチに四本の年輪があったことから四〇〇年はゆうに越えることが想定される。
自然遺産として貴重なものであり、この大柳を村人の宝として見て、触れて、譲り続けたいものである。
戸沢村文化保護委員会

【森林やまがた73号(2003年4月)記載】

